

新潟の女子短大生の方言

— 自動車学校・そろそろ・ナマラ —

福 嶋 秩 子

方言は衰退したといわれるが、若者のことばから方言がすべて消えうせたわけではない。福島2002では、新潟県内出身の女子短大生の方言アンケート調査データを地図化した結果に基づき¹、若者の方言の特徴を、1 共通語化 2 方言の隆盛：気づかれにくい方言 3 新しい方言 の三点から若者のことばの現状について述べた。

まず、新潟県の方言は、東日本方言と西日本方言の境界地帯にあることが知られているが、かつて新潟県内に分布があったはずの「買った」「居る」「しない」などの西日本系方言形コータ・カータ、オル、セン・シンなどは、佐渡など一部を除いてほとんど消えうせ、共通語にとってかわられている。

一方、気づかれにくい方言は今も使われている。たとえば、「指名する」のカケルや、「～に来てもらう」の「～カラ来てもらう」がそうである。「苺」や「畑」などの第1拍が高い頭高型のアクセントなどもこのタイプである。

さらに、新しい方言も生まれている。理由をあらわす伝統的な方言形スケは衰退し、スケの変化形のツケが中越から下越にかけて広がっている²。また、「明明後日」「明明明後日」は、伝統的な新潟県の方言では、「明明後日」を表わすヤノアサツテ、ヤナアサツテ、ヤナサツテなどの語があり、「明明明後日」については特に名称がなかったが、短大生の方言では、「明明明後日」でシアサツテという回答が増え、ヤノアサツテ、ヤナアサツテ、ヤナサツテなどの語は「明明明後日」を表わす名称となっている。シアサツテ（明明明後日）・ヤノアサツテ（明明明後日）という共通語の体系の影響によると考えられる。

県立新潟女子短期大学の「新潟県の社会と文化」や「言語学」の講義の中で方言アンケートを継続してきたが、本稿では、2007年（A、Bの2回）・2008年に行った調査から、新潟県の若者ことばにおける方言のありようの一端を示すために言語地図を作成・報告する。いずれの

地図も、若者のことばでなおも新しい方言が生まれている様を表わしている。

言語地図は、新潟県出身学生のデータにもとづき、出身市町村の役場位置（平成の合併前）に語形をプロットして作成した。同じ出身地であれば、複数の学生の語形が重ね打ちになっている。回答者数は、2007年調査のAが110名、Bが141名、2008年は153名である。

1. 自動車学校

「自動車学校」を表わす新方言がある。『辞典 新しい日本語』によると、「自動車学校」の略語として、富山県・沖縄県・徳島県・熊本県にジコー（自校）、秋田県北部・中部にジシャガ（自車学）、新潟県長岡市にシャガク（車学）、秋田県南部・愛知県・三重県・新潟県・山形県・函館・関西にシャコー（車校）があり、「自動車教習所」の略語として、全国的にジキョー（自教）、札幌市や関西にシャキョー（車教）があるとされる。

図1は2008年調査にもとづく新潟県の女子短大生の「自動車学校」の方言分布である。新潟県は佐渡も含め



図1

全域に「車学」が分布するが、例外的に上越市出身の5名すべてが「車校」である。また、県外の方言として、青森県青森市の「自転車校」、山形県小国町の「車学」、福島県喜多方市の「車校」、富山県氷見市・小矢部市の「自校」、長野県の「車校」が報告されている。上越市の「車校」は、長野県・愛知県につながる分布と考えられる。

2. そろそろ

「そろそろ出かける」という表現がある。この「そろそろ」は、「それをする時刻、また時期になりつつあることを表わす語。」(『広辞苑』)という意味である。この意味の新潟県の方言として、ヨロット・ソロットということばがあり、ヨロットは下越の方言、ソロットは中越・下越の方言とされている(『新潟県方言辞典』)。渡辺富美雄編の辞典においても、ヨロットは『新潟県方言辞典 下越編』に、ソロットは『新潟県方言辞典 中越編』に収録されている。

図2は2008年調査にもとづく新潟県出身の女子短大生の「そろそろ」の方言分布である。ヨロット・ソロットについて使用の有無をたずねた。方言辞典の記載と異なり、ヨロット・ソロットともほぼ全県に分布していること(使用数もヨロット66、ソロット58であり、互角である)、佐渡にダンダンという語があることが読みとれる。ダンダンが「そろそろ」の意味で使われるという記載は方言辞典に見あたらない。東京で、多摩の方言であったウザッタイからウザイが生まれ、都心から新たに若者に使われる新方言として広まった。ヨロット・ソロット・

ダンダンも、若者のことばとしてあらたに勢いを得て広がった新方言なのであろうか。再度調査するなどして精査し確認したい。

3. ナマラ

福嶋2007で、新潟県の方言として有名なナマラについて、方言辞典・方言書での記述と、短大生の方言における使用の実態(言語地図と使用例の記述)を比較し、若い世代で新しい意味の用法が広がっていることを指摘した。伝統的用法は中越・下越で「おおよそ」という意味であり、ナマラデナイという表現で「程度の甚だしさ」を表わす(野口2006・『新潟県方言辞典』)のに対し、若い世代ではナマラが「非常に」という意味となっている。ただし、沼垂方面の高年層では「非常に」という意味の用法であるという指摘を受けた(柄澤衛氏、2007年夏の新潟県方言研究会にて)。この用法が若者ことばに引き継がれ、新潟市を中心に広がったものと思われた。

2007・2008年調査データすべてを用いた言語地図を以下で示す。図3は新潟県出身の女子短大生の「ナマラ」の方言分布である。ナマラを使うと答えた率はかなり低く、回答者の7%にすぎないが、中越から下越に向けて分布し、特に下越に集中している。一方、「おおよそ」の意味であるとか「ナマラデネー」と言うなどの伝統的用法を使うとの回答はさらに少ないが、家族や友達が言うのを聞くというのも含めると、中越を中心とした分布が見える。

図4-6に、「程度の甚だしさ」を示すナマラ以外の

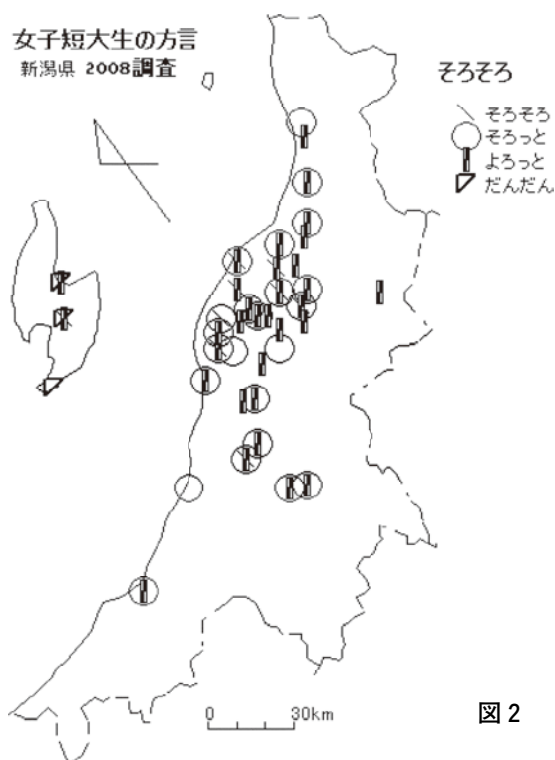


図2

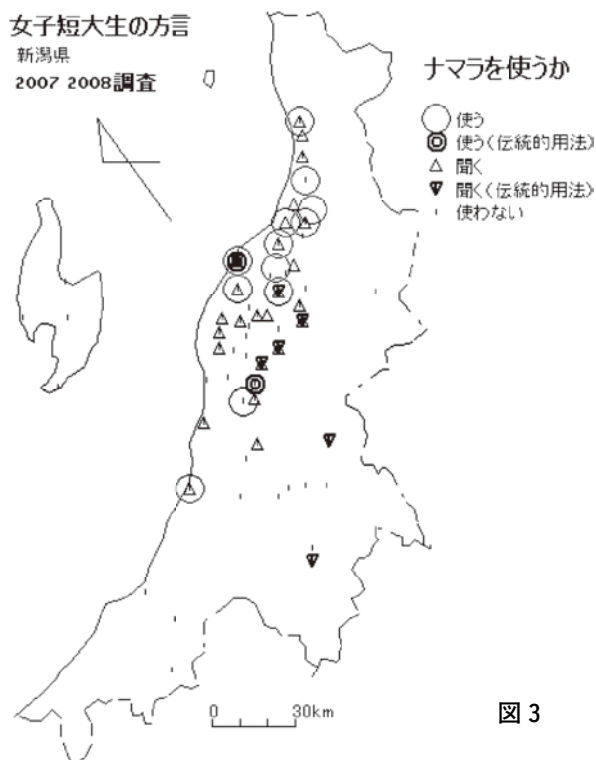


図3

語形の分布を示す。図4は、越後にバカとガット・ゴット系の語形、図5は、中・下越にヒドイ系、中越にヨッポ、佐渡にマッテ、図6は、メツチャ、チョー、ヤバイが分布している。ガット（ニ）系は「強く」という意味である。ヒッデ・ヒンデはヒドイ＞ヒデーから変化した形で、さらにヒャンデに変化したものと思われる。ゴッサはゴットとメツチャから変化したメッサとの混交形か。メツチャは関西系の語形であり、チョー・ヤバイとともに、新方言である。

参考文献

- 井上史雄・鎗水兼貴 2002 『辞典 新しい日本語』 東洋書林
 大橋勝男編著 2003 『新潟県方言辞典』 おうふう
 野口幸雄 2006 『新潟方言誌 蒲原の暮らしのことば』 新潟日報事業社
 福島秋子 2002 短大生の方言：新潟県出身学生のアンケート調査結果より(2). 『ことばとくらし』 第14号 pp. 横22-33



図4

- 福島秋子 2007 「ナマラの現在」『ことばとくらし』 第19号 pp. 横64-65
 渡辺富美雄 2001 『新潟県方言辞典 下越編』 野島出版
 渡辺富美雄 2004 『新潟県方言辞典 中越編』 野島出版
 『広辞苑』 第6版 岩波書店

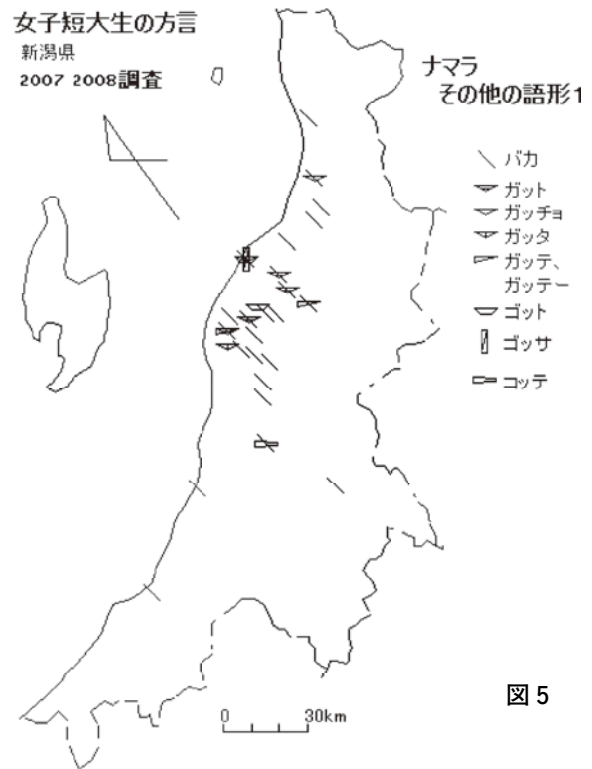


図5

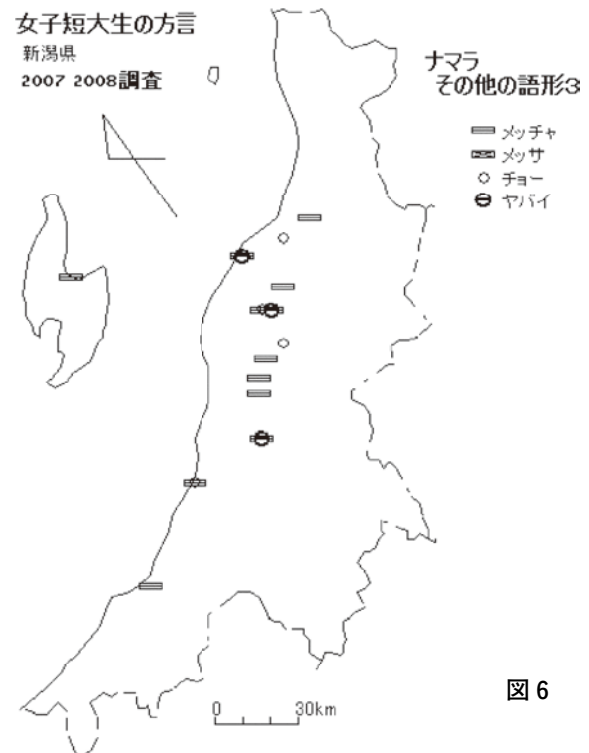


図6

¹ 方言に関わる講義の最初に、導入として方言アンケートを実施した。1994、1995、1996、1998、1999、2000、2002の7年分、631名の新潟県出身学生のデータを言語地図作成システムSEALを使って地図化した。

² 板垣俊一編著2006『新潟県の地域と文化 ―地域を学ぶために―』 雑草出版の「方言」(福島秋子執筆) 所収の言語地図を参照せよ。